学校番号	3010

令和8年度　　工業　　科

教科	工業	科目	映像デザイン実習	単位数	3 単位	年次	3 年次
使用教科書	自主編成教材						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

映像デザイン分野の3領域をローテーションで学ぶ実習です。3年間の集大成として、専門知識・技術を深化・統合させる実習です。プロのモデルを起用した広告撮影やスタジオ番組、雑誌編集など、より高度で実践的な表現に挑戦します。客観的な鑑賞の視点を持ち、課題解決に主体的かつ協働的に取り組む姿勢を重視します。真摯な制作態度に加え、学びを客観的に分析する「振り返り」の充実度を高く評価します。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
3領域の高度な専門技術を統合し、目的に応じた機材やアプリケーションを論理的に使いこなす力を養う。
【思考力、判断力、表現力等】
制作上の課題を発見し、科学的根拠に基づき客観的な視点で表現を判断・具体化する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
向上心を持ち主体的かつ協働的に課題へ取り組み、客観的な視点で社会と関わる態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	映像デザインが持つ社会的意義や人と技術の関わりを深く理解し、目的に応じた高度な専門知識と実用的な技術を統合することを重視する。写真・ビデオ・グラフィックの各領域で、最新の機材やアプリケーションを安全かつ効果的に使い分け、これまでの経験を生かして質の高い作品を完成させる応用技能を評価する。	制作上の課題を自ら発見し、科学的根拠に基づき制作上の課題を解決する力を評価する。企画から制作に至る全工程で、客観的な視聴者の視点を常に意識して適切な判断を行い、論理的な構成力と創意工夫ある表現を追求する能力を重視する。意図を的確に伝えるため、多角的な視点から作品を具体化する表現力を評価対象とする。	映像デザインに対する広い視野と向上心を持ち、分野の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を評価する。身近なメディアに広く関心を持ち、意欲的な情報収集を通じて自らの表現を絶えず更新しようとする探究心を重視する。実習に真摯な態度で向き合い、他者との交流や振り返りを通じて自らの制作活動をより深めようとする姿勢を評価する。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	写真作品制作	商品の広告ポスター制作を通じ、企画からスタジオ撮影、デザインまでを一人で完結させる力を養う。プロのモデルを起用したスタジオワークを経験し、PhotoshopやCamera Rawによる高度な画像処理とIllustratorによるポスターデザインを統合した実践的な技術を習得する。	a:映像デザイン分野における高度な技能を安全かつ合理的・効果的な手順で作品を完成させる専門的な力を評価する。 b:制作工程を通じて適切な思考・判断を行い、クライアントの視点に立った効果的な表現を構築する力を評価する。 c:映像デザインに対する広い視野と向上心を持ち、自ら主体的に情報収集や観察を行って作品の質を高めようとする姿勢を評価する。	実習ノート 提出作品 レポート	実習ノート 企画書 実習態度 提出作品	実習ノート 企画書 実習態度 振り返り
2	ビデオ作品制作	グループでスタジオ番組を企画・制作する。高機能なビデオカメラを複数台使用した撮影・録音を行い、Adobe Premiere Proによる効果的なスイッチング、テロップ挿入、音声処理を実践する。視聴者を意識したプロフェッショナルな映像構成と、集団制作における協働のあり方を学ぶ。	a:映像デザイン分野における高度な技能を安全かつ合理的・効果的な手順で作品を完成させる専門的な力を評価する。 b:制作工程を通じて適切な思考・判断を行い、視聴者の視点に立った効果的な表現を構築する力を評価する。 c:映像デザインに対する広い視野と向上心を持ち、自ら主体的に情報収集や観察を行って作品の質を高めようとする姿勢を評価する。	実習ノート 提出作品 レポート	実習ノート 企画書 実習態度 提出作品	実習ノート 企画書 実習態度 振り返り
3	グラフィック作品制作	自ら設定したテーマに基づき、複数ページの雑誌を制作する。Adobe InDesignを用いた本格的なエディトリアルデザインに取り組み、素材となる画像の加工（Adobe Photoshop/Adobe Illustrator）から紙面レイアウトに至るDTPの全工程を習得する。2年間で培った知識と技術を総動員し、完成度の高い作品を目指す。	a:アプリケーションの応用的な機能を習得し、目的に応じて効果的に使い分ける技能を重視する。 b:制作工程を通じて適切な思考・判断を行い、視聴者の視点に立った効果的な表現を構築する力を評価する。 c:映像デザインに対する広い視野と向上心を持ち、自ら主体的に情報収集や観察を行って作品の質を高めようとする姿勢を評価する。	実習ノート 提出作品 レポート	実習ノート 企画書 実習態度 提出作品	実習ノート 企画書 実習態度 振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度